

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆鉱工業生産指数、8月は1.2%低下 パソコンなど落ち込む

・経済産業省が発表した8月の鉱工業生産指数(2020年=100、季節調整済み)速報値は100.9となり、前月から1.2%下がった。ノート型パソコンなどの電気・情報通信機械工業が振るわず、2カ月連続の低下となった。全15業種のうち12業種が低下し、3業種が上昇した。生産の基調判断は前月の「一進一退」を維持した。

◆最低賃金、25府県は年間手取り「目安割れ」 政治介入で上げ時期遅れ

・2025年度の最低賃金が10月から順次発効する。例年は10月1日から適用となる地域が多いが、今年度は栃木のみ。各地で過去最大の引き上げとなるため、企業経営に配慮し発効日が遅れる。この結果、通例の発効スケジュールで国の目安通り上げた場合と比べ、25府県で年間の手取りが減るとの試算もある。所得改善が遅れる懸念がある。

◆全国の公立病院、24年度は過去最大の赤字 人件費増が重荷に

・総務省が発表した2024年度の公立病院の決算によると、経常収支は合計で3952億円の赤字となった。赤字幅は前年度から1853億円拡大し、過去最大となった。赤字を抱える病院の割合も83%と過去最大だった。人件費の増加が病院経営の重荷となっている。医業費用は前年度比4%増の5兆7238億円だった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆8月着工、6.0万戸 反動減は収まるも依然として約1割の減

・国土交通省が公表した8月の新設住宅着工戸数は、5カ月連続の減少となる6万275戸(前年同月比9.8%減)だった。法改正に伴う駆け込み着工の反動減の影響は小さくなっているものの、建築確認の長期化や申請者・審査機関双方の混乱によって約1割の減少。季節調整済み年率換算値は71万1000戸(前月比0.1%減)。3か月ぶりに減少した。

◆大和ハウス、AIで戸建てプラン提案 数秒で2000候補から厳選

・大和ハウス工業は人工知能(AI)を活用して顧客に最適な戸建て住宅を提案するサービスを始めると発表。顧客の要望や予算などの条件をもとに、AIが2000以上のプランから最適な住宅を厳選。予算や敷地条件、要望することなどを入力することで、合致度が高い順にスコアをつけた複数のプランを数秒で提案する。

◆パナや三菱電機、少数世帯むけ高機能家電 パワーカップルなどに的

・夫婦二人暮らしなど少数世帯向け小型家電の販売が好調。従来は若年層の一人暮らしを想定した低価格品が中心だったが、パナソニックが最上位機種に搭載する機能を備えた小型冷凍冷蔵庫を投入するなど高価格製品の取り扱いも増えている。パワーカップルなど購買力の高い層を取り込もうと家電各社は開発に力を入れている。

《 注目商品 》

■タカラスタンダード、ホーロー化粧洗面台「ファミリー」

・ホーローの優れた清掃性・耐久性とデザイン性を兼ね備えた中級価格帯の洗面化粧台。天板と洗面ボウルが一体型で手入れが簡単な「フラットカウンタータイプ」と、天板上にボウルを置いた造作スタイルの「ベッセルボウルカウンタータイプ」をラインナップ。



■パナソニック 健康を支援するバスルーム、電気式床暖房+平手すりを搭載

・システムバスルーム「BEVAS(ビバス)」から、電気式床暖房を備えた「ヒートセーフstyle」の提案を開始。超高齢社会における住まい手の安心と健康に対応するため、浴室空間を「住宅の中でできる生活習慣支援づくり」の場としても定義。安心感やあたたかさをテーマに開発。



■パナソニック、「脱・脱衣所」「多用途」な洗面化粧台

・普及価格帯の洗面化粧台・C-Lineから、多用途に使えるカウンター長さを確保し、洗面台下の自由度を高めた新プラン「フロートワイドカウンタープラン(Wall to Wallタイプ)」を発売。最大対応幅1700mmのロングカウンターを採用。収納の引き出しをつけず多目的に使える。

